

回復を目指す薬物依存症者の社会生活を支援するソーシャルワーク過程

日本福祉大学 山口みほ (002554)

キーワード：薬物依存症者 ソーシャルワーク M - G T A

1. 研究目的

現行の「精神保健および精神障害者福祉に関する法律」では、「精神作用物質の依存症を有する人」も「精神障害者」に含まれることが明記されており、薬物依存症者は公的に福祉的ケアを必要とする人とみなされているはずである。しかし、現実にはそうした観点からの社会的対応が得られにくい。ソーシャルワーカーの間でも、活用できる資源が少なく、多くの誤解や偏見を伴う薬物依存症者への対応は、「困難事例」として敬遠されがちである。そこで、薬物依存症者を支援するソーシャルワーカーが増えることを期し、薬物依存症者の社会生活支援のプロセス・モデルを作成することを目的に、M - G T A（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）を用いた質的研究を行なった。

2. 研究の視点および方法

ソーシャルワーカーによる薬物依存症者の支援は、本人・家族・その他の関係者とソーシャルワーカーの社会的相互作用によって展開するプロセスである。さらに、薬物依存症の進行・回復のプロセスが長期にわたることからも、この疾病を抱える人々の支援は単に結果のみならずプロセス全体が重視される。

また、本研究は、結果としてまとめたプロセス・モデルが、ソーシャルワーカーが薬物依存症者に関わる際に応用され、より実際的なものに修正されていくことを期待している。

こうした理由から、相互作用を伴うプロセスの分析に適しており、現場での研究結果の応用を志向するM - G T Aを研究方法として用いることとした。

1) 調査対象

薬物依存症者およびその家族を対象とする援助機関で、薬物依存症者の相談支援におおよそ5年以上携わっているソーシャルワーカー5名を対象とした。

2) データ収集の方法

下記のインタビュー・ガイドをもとに、半構造化面接を実施した。

薬物依存症者の社会復帰（もしくは社会参加）をどのように支援しているか
薬物依存症者にとっての社会的障壁と、それへの対応の現状
活用した（又は活用しようとした）社会資源について
その他、薬物依存症者・家族の支援にあたって感じたこと等

3) 調査期間

2009年11月～2010年3月

3. 倫理的配慮

調査対象者に対して、事前に研究の目的および方法、研究への協力は任意であり同意しない場合でも不利益を受けることはないこと、同意の撤回も可能であること、研究成果の公表に際しては対象者の匿名性を保つことを明記した協力依頼文書を渡し、インタビュー当日に口頭でも説明を行なった上で、同意文書に署名をしてもらい、調査への協力の意志を確認した。

4. 研究結果

分析結果として、10個の概念、5個のカテゴリー(1概念のみのものも含む)を生成し、ストーリー・ラインを表す結果図(発表当日に提示)を作成した。以下に、ストーリーラインの概略を述べる([]は概念名、【 】は複数の概念を含むカテゴリー名を表す)。

ソーシャルワーカーによる薬物依存症者の支援では、依存症者と家族等の関係者をクライアント・システムとしてとらえて依存症者本人以外の人への[援助対象の転換]を行ったり、反社会的問題と見られている薬物依存症者の問題行動について[「疾病」としての受け止め]をして援助関係の形成をはかる。しかし、「依存症」を事由として利用できる社会資源は少ないため、「依存症」以外の[別側面からの介入]も試みる。こうした【戦略的リフレーミング】を繰り返し、利用できる社会資源の幅を広げながら支援を展開していく。そして、多様な機関が薬物依存症者と関わる糸口を見出して[援助ネットワークの形成]を行ない、[別側面からの介入]によってネットワークに加わった援助者にも徐々に[依存症視点の導入]をしつつ【関係機関の動員促進】を図る。さらに、個別ケースにおいて【戦略的リフレーミング】や【関係機関の動員促進】がどのように行なわれたかを確認し、他の当事者や援助者にポイントを伝えたり、行政に制度運用の改善を求めるなど、より多くの薬物依存症者が資源を活用できるように[個別実績の普遍化]を行なっていく。

このような取り組みは、[時間の共有]によって依存症者の[「思春期」からの再成長支援]をしながらソーシャルワーカーも変化し、[「回復」への信頼形成]をしていくことで成り立つ、当事者・家族との【長期の関係形成】が基盤となって展開される。また、ソーシャルワーカーの所属機関がそうした関係形成の場となったり、所属機関の他のスタッフの力も借りて他機関への働きかけや当事者・家族への情報提供を行なうなど、プロセスの随所で[所属機関の活用]がなされる。

以上のように、必要とされるソーシャルワークの視点・技術はほとんど基本的なものであるが、薬物依存症者の支援では、長期的な展望を持ち、問題を把握する視点を戦略的に変えて多様な関係機関をつなげていくことを特に意識する必要がある。